

Honda Dream Racing

2017 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第2戦 2017 NGKスパークプラグ 鈴鹿2&4レース

TOHO Racing レースレポート
Honda Dream Racing
JSB1000クラス #104 山口 辰也

4月22日(土曜日) 天候：晴れ 路面:ドライ
公式予選／2'07"834 7番手
4月23日(日曜日) 天候：晴れ 路面:ドライ
決勝／4位 (35周)
開催地:三重県・鈴鹿サーキット
入場者数:56,000人 (土・日合計)

2017年の全日本ロードレース選手権が開幕。最高峰クラスのJSB1000は、今年も鈴鹿2&4レースが初戦となった。JSB1000クラスで6年目を迎えるTOHO Racingは、今回の鈴鹿2&4レース、第3戦SUGO、そして鈴鹿8時間耐久ロードレースを株式会社ホンダモーターサイクルジャパン様のサポートの下「Honda Dream Racing」としてエントリー。カラーリングもHonda Dreamのブラックベースのシックなカッコいいものとなり、イメージが一変された。また、待望のニューマシンHonda CBR1000RR SP2が投入され期待が高まっていた。

しかし、実際にニューマシンを走らせることができたのが、レースウィークの火曜日だった。岡山国際サーキットのスポーツ走行でシェイクダウンを行い、エンジンの慣らしと電子制御の確認を行った。

木曜日の特別スポーツ走行から、今シーズンよりレギュレーションで変更された17インチのタイヤを初めて履き、鈴鹿サーキットを走り始める。ここで初めてレーシングスピードでニューマシンを走らせるが、電子制御や足回りのベースを出すための作業に思いのほか苦戦することになる。なかなかイメージ通りに走ることができず、ピットイン、ピットアウトを繰り返しながら試行錯誤していった。

今年も鈴鹿2&4レースは、鈴鹿8耐に向けたトライアウトを兼ねており、出走台数も67台と多かった。公式予選は2グループに分けて行われ、山口はBグループで出走。35分間で争われたセッションでは、2分07秒台に入れ、7番手グリッドを確保した。

レースウィークは、天候に恵まれ、決勝日も朝から雲一つない快晴となった。お客さんも朝早くから鈴鹿サーキットを訪れ、日曜日だけで3万5000人もの大観衆が集まった。

鈴鹿サーキットを35周で争われた決勝。長丁場となるためガソリン補給のためのピットインがマストとなる。ライダー2人で走ることも可能だが、約2/3のチームが一人でエントリーしていた。当然、山口も一人。ニューマシンでロングランするのも決勝が初めてという状況でスタート時刻を迎えていた。

鈴鹿8耐でおなじみとなっている、ライダーがマシンに駆け寄るル・マン式スタートでレースは始まった。山口は好スタートを決め3番手で1コーナーに入っていく。その後、一つポジションを落とし、スプーンカーブを立ち上がったところで後方のライダーが転倒。このアクシデントのためにセーフティーカーが導入され、4周に渡ってコースに入ることになる。この間、目の前にいた中須賀選手がまさかの転倒を喫する。セーフティーカーランが長く、スピードも遅かったこともあり、タイヤが冷えてしまっていたのだ。これを見た山口もリスタートが切られたときは、慎重に行ったのだが、何度もハイサイドになりかけていた。何とかタイヤに熱を入れ、グリップを取り戻したころには、トップは逃げてしまい、3番手争いを繰り広げていた。

レースも折り返しとなる19周目にピットイン。3番手を争う、Kawasaki Team GREENの渡辺選手と同じタイミングだったが、チームもミスなくタイヤ交換、ガスチャージを行いコースに戻っていく。しかし、藤田選手にピットインのタイミングで前に出られてしまい3台での3番手争いとなって行く。藤田選手が渡辺選手をかわして前に出ると差を付け始める。これを見た山口も28周目の逆バンクで渡辺選手をかわし藤田選手を追うが、バックマーカをかわすのにてこずってしまい4位でゴール。様々な苦難を乗り越えてつかんだ結果となった。



JSB1000 ライダー/監督 山口辰也コメント

「ニューマシンのパーツがそろったのが、レースウィークの月曜日だったので、とにかく時間がありませんでした。その中で、チームと相談しながら、現状ではベストな形で戦えたと思います。また、今シーズンは、アジアロードレース選手権にも参戦させてもらっていて、すでに2戦をこなしていたことで“レース感”があったこともプラスに働きました。まだまだバイクは改善していく点がたくさん残っているので、もっと速くなるように仕上げて行きたいと思っています。今シーズンも応援よろしくお願いたします」

チームメカニック 戸井田剛コメント

「株式会社ホンダモーターサイクルジャパン様を始め、多くの方のサポートのおかげで新しいシーズンを迎えられたことに感謝いたします。今回は、ニューマシンが到着してから準備期間が短く、セッティングを進める作業に追われてしまい、連続ラップは、レースが初めてという状況でした。それでもライダーが頑張ってくれましたし、いいデータも取れたので、次戦の SUGO に向けて、いい流れを作っていきたいと思っています」

総監督 福間勇二コメント

「まずは、今シーズンも多くのスポンサーの皆様から御協力、御協賛を頂き、最高峰クラスに挑むことが出来ますことを心より御礼申し上げます。また、全日本ロードレース選手権シリーズ第2戦鈴鹿2&4、同第3戦 SUGO、鈴鹿8時間耐久ロードレースは、株式会社ホンダモーターサイクルジャパン様のご協力を頂き、Honda Dream Racing として挑むこととなり、その初戦となる第2戦鈴鹿2&4で4位というリザルトを残すことができましたのも、皆さまのサポートのお陰と感謝申し上げます。これからまだまだ新型マシンのセッティングを進めていく点が多くございますので、チーム一丸となり精一杯努力して参ります。何卒宜しくお願い申し上げます」



株式会社 TOHO
Honda Dream Racing
担当 野口